

# 研修医の声

(所属等は2月末執筆時現在です)

長岡中央総合病院 研修医1年目

**植木 宏登** 先生 出身高校 県立新潟高校  
出身大学 獨協医科大学

長岡中央総合病院の植木宏登と申します。大学時代の栃木県を離れ地元新潟で初期研修をすることに決めました。県外大学出身であったため新潟県に戻ることに多少なりとも不安はありましたが、先輩方や同期に恵まれ充実した研修生活を送っています。初期研修が始まり早くも1年が経とうとしています。日々の臨床ではわからないことも数多く不安になることもあります。しかし、その一方で採血やルート確保、CV挿入や腹腔穿刺といったスキルが少しずつではありますが身につけてきたように感じます。長岡地区は輪番制をとっているため3日に1度当番病院となります。当番日には数多くの救急車やウォークインの患者さんが訪れます。大型連休やイベントが重なった当番日には1日で数百人もの患者さんが訪れますが、基本的にはそのすべての患者さんのファーストタッチを研修医が行います。救急外来では研修医が主体となって問診、診察、検査を行うため悩むことも多いですが、とても勉強になります。もちろん、わからないことがあればすぐ上級医に相談し、親切に教えていただける環境が長岡中央総合病院にはあります。研修先に悩んでいる方は是非一度見学に来てみてください。



長中での  
初期研修

筆者:後列左から4番目

済生会新潟病院 研修医1年目

**大野 佑樹** 先生 出身高校 新潟高校  
出身大学 新潟大学

研修医となって早いものでもうすぐ1年を迎えます。4月当初を思い返すと何もわからずただ必死なだけでしたが、今は救急外来や病棟で責任を持ち行動できるようになってきたと感じます。社会人としても医師としても未熟であるにも関わらず、患者さんからは1人の医師としてみていただきありがたく感じるとともに、できることが少なく無力さを多々痛感する1年間でした。

済生会新潟病院は科の垣根が低く、指導医の先生との距離感もとても身近です。知識を与えてくれるだけでなく、なるべく研修医主導でやらせてくれる熱心な先生やローテートが終わってから声をかけてくれる温かい先生がたくさんいます。そしてなにより研修医の仲間に恵まれており仕事が楽しくできています。例えば救急外来で診た症例について話したり、病棟で困ったことを相談したり、検査値を一緒に見ってもらったり、(ときにはプライベートのことも…)と様々なことをカンファしています。お互いに教えあうことで知識も定着し、多様な考えを吸収できるので、1人で研修するだけでは決して学べない多くのことをカンファで得ています。これからも互いに高めあい、一層精進していきたいと思えます。



当院の魅力と  
1年間の  
振り返り

筆者:左奥